

98 檜原湖及び田子倉湖におけるワカサギの年齢組成

福島県内水面水産試験場調査部・平成12年度内水面水産試験場事業報告書

- 1 部門名 水産業－内水面(増養殖)－その他魚種(内水面) 分類コード 19-08-65000000
- 2 担当者 渋谷武久・廣瀬充
- 3 要旨

ワカサギはキュウリウオ科ワカサギ属の魚であり、適応力が高いことから各地で放流が行われている。ワカサギは従来1年魚とされてきたが、近年は生息地によって複数の年齢群の存在が示唆されていることから、本県の檜原湖及び田子倉湖で年齢調査を実施した。

(1) 親魚の年齢組成

檜原湖及び田子倉湖において5月に産卵遡上するワカサギ親魚をそれぞれ200尾以上採捕し、魚体重の測定と年齢・雌雄を調査した結果、檜原湖では92.1%、田子倉湖では92.5%の個体が満2歳魚、残りの7.9、7.5%の個体が満1歳魚とわずかな満3才魚であり、両湖でのワカサギの寿命がほぼ満2年であることが分かった。また、雌雄別の平均全長、平均体重は両湖とも年齢群ごとに差が無く、雌雄で成長に差がないことが判明した。

(2) 遊漁対象魚の年齢

遊漁期間は、檜原湖では12～3月の冬季間、田子倉湖では6月から10月の夏季間が主体である。遊漁期間にワカサギを採集し、魚体重と年齢を調査した結果、檜原湖では12月には1+魚(満1歳以上満2才未満)が100%を占めるが、2～3月には0+魚が45.1～72.1%に増加する傾向にあり、1月以降0+魚が成長し、釣り資源として加入する状況が解明された。田子倉湖では対象魚は全て1+魚であった。全長は8月から10月にかけて成長するものの、親魚の全長にはおよぼらず、夏季に釣れる1+魚が越冬し翌年5月の親魚となっているともと考えられた。従来ワカサギは年魚とされ、5月に孵化した稚魚が成長し、冬季に釣りの対象となると考えられてきたが、両湖では越年した1+魚が釣りの主体であることが分かった。

4 主な参考文献・資料

- (1) 根岸貴之ほか 鱗相から見た濤沸湖のワカサギの生活, 網走のワカサギに学ぶ会発表要旨集(1994～1997). 網走水産センター, pp32～33
- (2) 鳥澤雅(1999) 網走湖産ワカサギの生活史多型分岐と資源変動機構. 北海道立水産試験場研究報告第56号, pp65～78